



七ツ釜滝前衛滝の釜に飛び込む橋本。

川第三発電所から少し登山道を歩き、大日窟の先から入渓する。千尋滝まではひたすら河原を歩く。音を立てて追ってくるメジロアブが恨めしい。豪快に水を落とす千尋滝を見物してから、再び溯行。

8月11日(晴れ) 宮川第三発電所から少し登山道を歩き、大日窟の先から入渓する。千尋滝まではひたすら河原を歩く。音を立てて追ってくるメジロアブが恨めしい。豪快に水を落とす千尋滝を見物してから、再び溯行。

巨岩帯を抜けていくと、いよいよ七ツ釜だ。前衛の2条15m滝を40mの泳ぎの後、左側の水流に沿って抜ける。少しすると、出だしに大きな釜を持つ七ツ釜滝が現れた。周囲を見回すと、左岸のハンク部に残置ハーケンが一本あるが、このラインはありえない。釜の向こうにある大チムニーから登るのが正解のようだ。

巨岩帯を抜けていくと、いよいよ七ツ釜だ。前衛の2条15m滝を40mの泳ぎの後、左側の水流に沿って抜ける。少しすると、出だしに大きな釜を持つ七ツ釜滝が現れた。周囲を見回すと、左岸のハンク部に残置ハーケンが一本あるが、このラインはありえない。釜の向こうにある大チムニーから登るのが正解のようだ。

途中の支点は1カ所のみだが、快適なフエースに50m延ばしてバンドでビレイ。1ピッチでは終わらず、バンドを辿り、その突き当りにあるチムニーを登ってF2の落ち口へ。F3は約30m。左手のカンテ状を

途中の支点は1カ所のみだが、快適なフエースに50m延ばしてバンドでビレイ。1ピッチでは終わらず、バンドを辿り、その突き当りにあるチムニーを登ってF2の落ち口へ。F3は約30m。左手のカンテ状を

たからでもあろう。だが、これまで取り組んできた谷登りの目で眺めてみると、併走する登山道(通行禁止)を使わずに、数々の大滝にトライし

て最後まで登ることが可能な谷だった。難易度は高くないが、関西に住む人にはぜひ一度トライしてほしい。とくに七ツ釜滝から光滝を経て隠れ滝までの区間は、楽しくも少し難しいフリーあり、長い泳ぎありの秀逸な区間だ。黒部川上ノ廊下や八久和川とは違った大渓谷溯行の魅力に溢れている。

猪ヶ淵までの3カ所の淵は水線通しに抜ける。うち2つは50mくらいの泳ぎとなり、ゆでダコになった体がクールダウンされる。豪快なニコニコ滝の前を通り過ぎて少しすると、平等窟の工事現場が見えてくる。平等窟は、工事の邪魔にならないよう巨岩の迷路を右に左にさまよいつつながら登る。すぐ上のトロを泳ぐと、不動谷出合、桃ノ木小屋直下は、水の中を行くことはできず、巨岩を乗り越す。

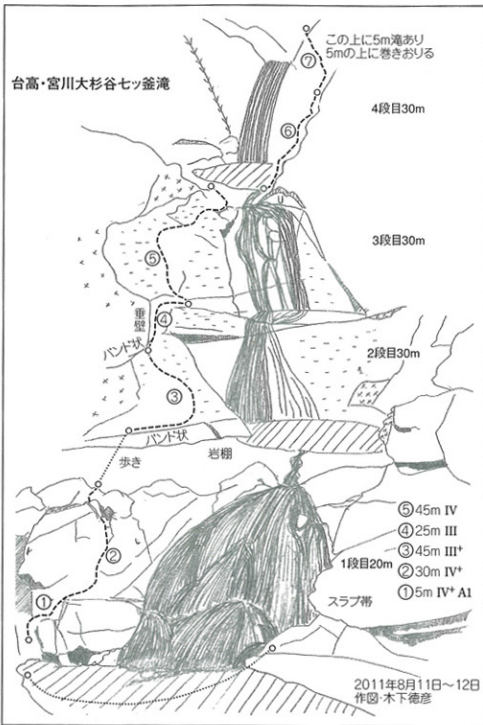
大チムニーまで40mを泳いで登攀開始。1ピッチ目はショルダで相川を一段上げ、カムを使って支点を取り、その一段上のテラスへ。這い上がるころは、チムニーから体のはじき出されるようでも緊張する。ロープの流れが悪くなるので、いったんテラスでピッチを切ったのち、再び相川リードでF1落ち口へ向け直上。抜け口のクラックは空身で登るには楽だが、フォロワーの重量級ザックではどうにもならず、テンションをかけるが登りになる。

台高・宮川大杉谷本流～西谷

台高・宮川大杉谷本流～西谷
2011年8月11日～13日
木下徳彦(37)=チーム84、橋本剛(42)、相川創(36)=ともに、ファイントラック
(11日) 宮川第三発電所 8:00～桃ノ木小屋 12:10～七ツ釜滝 14:00～七ツ釜滝F4 取付で幕営 17:30 (12日) 七ツ釜滝F4 取付 6:00～光滝 8:30～堂倉谷出合 12:00～横見滝ゴルジュ上 17:30 (13日) 横見滝ゴルジュ上 5:30～西谷橋 6:30～大台ヶ原 駐車場 10:20
報告・木下徳彦



大杉谷と言えば七ツ釜滝や堂倉谷が有名だが、多くは最寄の登山口からの往復であり、本流を通して登ったという話はほとんど聞かない。それは、入下山の問題もあるだろうが、水線通しには登れないと言われてき



光滝手前の土砂崩れ跡。巨岩が積み重なって迷路になっている。

三滝は左岸から小さく高巻き、続く大きな釜を持つ折滝は、釜を30分泳いで水流左の小テラスに這い上がり、そこから左壁に登る。水流沿いには行けず、左壁をそのまま小尾根上まで登ってから、慎重にクライムダウン。次の巴滝20分は、正面からは登れない。左に見事な壁が広がっているが、この壁

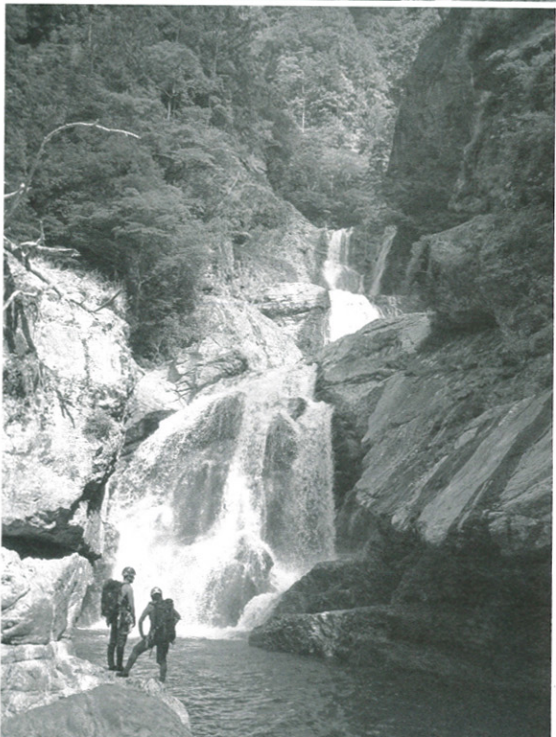
かぶりながら、8分ほど上のテラスまで空身で上がり、ピッチを切る。ここからは、水の勢いがある中を左にトラバースするのだが、水は岩の

隙間に吸い込まれている。ここで落ちると絶対に助けられないので、出だしはショルダーで突破して、その後左トラバース。苦勞して上がれ

ば、この上は再び快適な岩盤の谷だ。隠れ滝の10分ほど上流で右岸に落ちる吾八郎滝を過ぎると、いったん谷はゴルジュ状になり、取水堰まで30分ほどの快適溯行が

続く。

ここからは、堂倉谷ではなく西谷へ入る。大杉谷の本流は、地形から見てもやはり西谷だ。谷の大きさは本物で、次第に岩が大きくなって、やたらと時間がかかるようになる。



写真下は、セツ釜滝のF1からF3。ここからは、最上段のF4は右の岩壁の陰になって見えない。写真上が、セツ釜滝最上段のF4隠れ滝。画面右がF3落ち口だ。このF4は、正面に登ることはできず、右側のリッジに登る。

うか確かめてみたい。全く日差しがない50分近い泳ぎをこなして、隠れ滝の左壁取付のテラスへ。ここからさらに水流の裏を泳いで、一番奥のテラスまで進む。近くで見ていると、行けるように見えてくるから不思議だ。橋本が猛烈なシャワーを

登った後、外傾テラスを水流へ向かう。そのまま水流沿いのスラブが上がった後、落ち口までは下り気味の箇所もあるトラバースを慎重にこなす。奥には、大釜と一見して直登不能と分かる20分隠れ滝があり、手前には大水による土砂の流入がつくったと思われる大きな河原がある。これ以上行動すると、暗い中でクライミングになるので、瀑風が吹き込んで寒いところだが、この河原で、なんとか焚き火を熾してヒバークする。

8月12日(晴れ) 昨晚からあれこれ議論して、セツ釜滝3段目の落ち口から延びているリッジに登ることにする。過去には、隠れ滝右岸に落ち込む泥ルンゼや、はたまた隠れ滝とは真逆の方に遙か300分近く上にある作業道をめざして登った人もいたのだが、おそらく正しいのはこのルートだろう。出だしは垂直の凹角で浮石もあり苦勞するが、そこさえ越えれば、あとは段々の露岩登り40分、下からの偵察通りの安定したバンドへ。バンドを辿って20分ほどのクライムタ

ウンをこなすと、隠れ滝の落ち口に落ちた。しばらく快適な河原歩きを続けると、光滝下の土砂崩れ跡に遭遇。土砂崩れは本流まで届いており、谷筋は巨岩が積み重なった迷路になっている(写真次ページ)。少し進むと光滝。一見すると登れそうにない代物だが、巨岩帯をうまく抜けて滝まで行く。下部は右壁を巻き気味に登り、明瞭なバンドをトラバースすると、ちょうど滝の中間くらいの高さのところへ至る。ここからは相川がリード。壁は非常に

滑りやすく、アクアステルスでは全く手が出ない。フェルトの溪流靴の彼は、出だしの凹角を苦勞して越えていった。水流沿いの滑るフェースは、最初はバランスが必要だが、耐えて延ばしていくと、壁はじきに階段状になり、続いて乾いた草付フェース、そして最後は水流右の白いスラブで落ち口に達する(写真等146ページ)。光滝の上には吊り橋がかかり、その下には大きな釜、一番奥には登れそうにない隠れ滝がちりと見える。ここまで来たからには登れるのかど



【写真左】光滝。右壁のバンドの上は滑りやすい壁をフェルトで
 突破。【右】光滝の上流にある隠れ滝に、水流裏を泳いで取り付く。

の中に入らうまい具合に体の幅ほどのバンドが入っている。辿っていくと、工事用ロープがあり、誘導されるように落ち口に降りた。

西谷の核心部である横見滝5は、正面からは登れないので、左岸から高巻くと、落ち

口直下に紐がぶら下が

っており、これを安直に使ってクラ

の台地までロープを45延ばす。下

イムダウン。

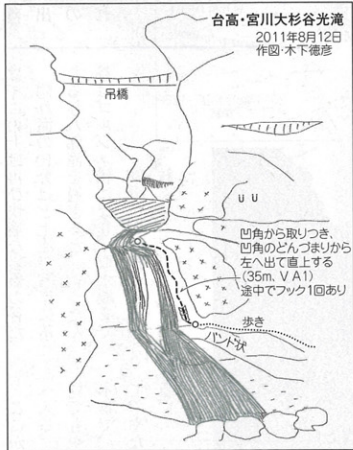
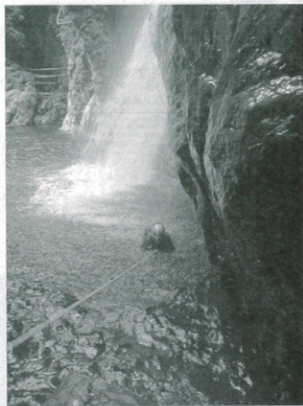
を見ると、とても登れそうにない？

ここから始まるゴルジュは快過だが、横見滝の次のトイ状10の滝の直

登はまず無理で、左岸の残置ハーケンのあるところから登る。この滝の

落ち口へ向かうのは難しく、一段上

降りたところには鉄骨と丸太で作



巻きたいとしたことはない。そのまま進むと、3段30ほどの滝が出てくる。これを右から高巻くと源流の雰囲気であった。

何本か分かれる支流に誘われないように注意深く登っていくと、笹原の中で登山道に出合い、そこから20分で車道であった。

つた大きな堰堤が沢を塞いでおり、右手を登って乗り越す。この上は、きれいな河原が広がっており、今日中に上まで辿るのは難しいので、この河原で暮営した。

8月13日(晴れ) とくに難しいところはなく、ひたすら河原歩きと

る。堰堤も出てきたが、越えるのは易しい。

途中の土倉滝10を左から注意して越え、ミニゴルジュを抜けると、すぐに二俣になった。日出ヶ岳へ抜ける道は左のようだが、そのまま右の本流を進む。出だしから連瀑とな

投稿要領

登山とクライミングの「いま」を伝える投稿をお待ちしています。

【原稿】字数制限はありませんが、簡潔な記述で

登山の内容とルートの様子をご報告ください。難読地名にはフリガナをつけてください。メンバーの名前はフルネームで、年齢・所属も明記してください。原稿は、編集部で手を加えることがあります。

【写真・ルート図など】登山内容が分かる写真とルート図(市販地図のコピーに必要事項を朱書、あるいは自作)もお送りください。【その他】電話、メールアドレスなどの連絡先を明記してください。他誌との二重投稿はご遠慮ください。原稿・写真などの返却をご希望の場合は、返却用の封筒を同封してください。【送付先】gakujin@chunichi.co.jp 100-8505 千代田区内幸町2-1-4 東京新聞「岳人」編集部 FAX 03-3595-4863

*氏名、住所などの個人情報の取扱は、法令を遵守し、小誌編集の目的以外には使用することはありません。